# **Chulalongkorn University**

~ 留学報告書~



高知工科大学 システム工学群 此尾 友花

## \*はじめに

私は2019年1月から5月末まで、タイにあるチュラロンコーン大学に科目履修留学をしました。留学を志したきっかけは、多くの国際交流活動を通して海外に長期で滞在し、自分の力を試したいという気持ちが大きくなったからです。また、TNIのサマースクールやタイ・シンガポール研修に行ったことで、タイの同じアジアでも全く異なるライフスタイルに衝撃を受け、もっとタイについて深く知りたいと思ったからです。

## \*チュラロンコーン大学



チュラロンコーン大学はタイで一番と言われている大学で、タイ人なら知らない人はいないと思います。実際に、現地の方とお話ししている時に、チュラロンコーンで勉強しています、と言うと皆さん決まってすごいねと仰っており、大学はMRT samyan駅に隣接しており、大学はMRT samyan駅に隣接しており、二はSiamやSilomと言った都市部、観光地のエリアです。いつも大勢の観光客や現地に住んでいるタイ人で賑わっています。大きなデパートがたくさんあり、レストランも多いです。また、キャンパスは非常に広大で、校内とSiamなどの中心地までバスが往来しており、無料で

朝の7時ごろから夜の9時ごろまで乗ることができるので、非常に便利でした。私は、授業が終わった後などに、クラスメイトとショッピングモールに行ったり、休憩時間にランチをする為にもバスを使っていました。

大学ではISEというインターナショナルの、 授業が全て英語で行われる工学部に属してい ました。タイ人の学生に聞けば、タイ語での 工学部よりも授業料は高く、インターナショ ナルハイスクールや海外に住んでいた学生が ほとんど、という事でした。実際に私も英語 をnativeのように話す友達やタイ語が苦手な タイ人の友達がおり興味深く刺激的でした。 先生方もタイだけでなくアメリカ人や中国人 でした。





チュラロンコーン大学は、非常に大規模な大学です。各学部に、食堂と図書館が揃っています。また、食堂の内容もそれぞれ学部ごとに違う為、自分のお気に入りのお店を見つけることも、私の楽しみの一つでした。一食おおよそ25~40バーツです。私が所属していた工学部の食堂は、フライドチキンライスが名物でしたが、私はいつもクイッティアオというタイヌードルを好んで食べていました。個人的に工学部のメニューは男の子が多いためか、ガッツリしたものが多いように感じました。食堂は18:00前には閉まります。テイクアウトもでき、私はよく三食全て食堂でまかなうこともありました。どれも美味しくて、安いので、地元の方や近隣のオフィスで働いている方からも人気でした。

テスト前は、授業が終わった後に、 よく図書館に行き、勉強していました。夜は21:00まで開いています。 エンジニアの学生は主にエンジニア の図書館で勉強しますが、24時間開いている図書館もあるため、試験前などはそこにいく学生も多かったです。



タイの大学生は、白いシャツに黒いスカートを履くことで有名ですが、チュラのスカートは 紺色でした。工学部のクラスではエンジニアジャケットを着用しても良いです。チュラのエ ンジニアジャケットの色は薄い紺色で、これは各大学で色は違います。先生によって、ユニ フォーム着用に関して厳しい方もいれば、そうでない方もいました。

## \*授業を通して成長できたこと

ISEでは留学生に多くの授業が提供されます。その中で、私が履修科目を決める上で考えた事は、「今、ここでしかできないものをとる」ということです。

Dynamicsのクラスは、日本語以外で専門知識を学んでみたいと感じたので履修しました。 英語で勉強することに、特に抵抗はなかったのですが、物理の内容が難しくなかなか苦戦しました。しかし授業では、この留学を通して、本当に出会えてよかったと思えるタイ人の友達に会え、沢山手助けをして貰い、自分でも努力したため、満足しています。



次に、Thai communication も履修していました。タイで生活する上でタイ語が必要か、と問われれば、私は特に必要ではない、と答えると思います。なぜなら、観光大国であるタイは毎日沢山の外国人観光客の相手をしなければならないため、タイ人も簡単な英語は話すことが出来るからです。しかし、せっかくタイに5ヶ月間も滞在するなら、タイ語を勉強することをオス

スメします。私は、いつもこの授業で習ったものは、実際に街中でも活用してすぐに使えるようにしていました。そして、アジア人ということもあって、顔だけではお店の人もタイ人か外国人か判断出来ないので、タイ語で会話していると、本当にタイ人に間違われることも多かったです。タイ語は声調は難しいですが、生活していく中で、タイ語を話せば、屋台などでも現地の人とお話ししたりできます。授業で、生活に必要なタイ語を楽しくみんなで、効率的に学べて、なおかつ実際に役に立ったため、是非、タイ語を勉強して話して欲しいです。

そして、プレゼンテーション系のクラスExploring engineering world & Communication presentation skill  $\sigma$ 2つを履修していました。Exploring engineering worldと いうクラスは、1年生向けの課題解決型授業でPBLに似 ていると思います。毎回、新しい考えを友達と意見交換 し、自分たちで製品を考え、他のチームと競い合いま す。クラスメイトの意見は非常に面白く、また、私のグ ループのリーダーは、飛び級をして大学に入ったのでま だ17才と若いのにリーダーシップがあり、見習いたいと ころが沢山ありました。もう一つの授業は、先生も厳し く、毎週プレゼンテーションをしなければならなかった ので、人前で話すことに対してストレスを非常に感じ、 緊張しました。しかし、個人プレゼンテーションで内容 を一生懸命考え、駄目なところを直し、先生からもアド バイスを貰っていくうちに、自分の短所と長所が見えて きました。グループで行うセクションでは、プレゼン テーションはもちろんジョブミーティングなどの、社会 生活で必要になる事も行いました。私のグループはドイ



ツ人2人とタイ人で構成されていて、1人のドイツ人はいつも旅行に行っており中々練習を満足に出来ませんでした。しかし、それではダメだ、と感じたので、自分から練習する事を提案して、最後のジョブミーティングセッションでは、その練習の成果を発揮できスムーズに行うことができました。私はチェアマンというみんなをまとめる役割を担っていたので、責任が沢山あり緊張しましたが、グループのメンバーに、最後に良かったよと褒めて貰い安心しました。

#### \* AFTER SCHOOL

放課後は、友達と夜ご飯をいっしょにたべたり、家の近所で屋台で一人で食べることが多かったです。屋台ではだいたい50~60バーツほどで一食、食べることができます。タイで



は、外食文化なので非常に安い値段で美味しいご飯が食べられ良かったです。日本料理も一般的で、しゃぶしゃぶや 寿司もよく食べていました。



## \*FRIENDS



タイに来てよかった思った理由の一つは、友達です。

チュラロンコン大学は、様々な国から多くの留学生 が集まっており、私は、違った視点を持ち、多様性 を受け入れることができるようになりました。



特に、仲が良くなったのは、フランス人とフィリピン人です。彼女たちとは、よく休みの日に出かけたり、旅行をしたりしました。他にも、アメリカ人やスペイン人、ドイツ人、スイス人、シンガポール人など、色々な国の友達ができ、語学力もアップしたと思います。



また、タイではLGBTに対して、日本よりももっと理解があり、実際にクラスメイトにも数人いました。しかし、みんな特別意識することはなく、差別的な扱いはしておらず非常に居心地が良いな、と感じました。

### \* さいごに

留学を終えて、タイでの5ヶ月間は、私の人生で一生忘れることの出来ないくらい毎日新しく、刺激的で、楽しく、時に辛いものでした。タイ留学に挑戦したことで得たものは多いです。日本の外に行くことに抵抗のある人も沢山いると思いますが、少しでも行ってみたいという気持ちがあれば、多くの人が応援してサポートして下さると思います。日本では体験し得ない多くのものを実際にやってみて、学んだものは数え切れません。留学に行ったことを、後悔することは一生ないです。高知工科大学の先生方や国際交流部の方には、事前準備からサポートしてもらい非常に助かりました。

最後に、この交換留学を応援して見守ってくださった全ての方に感謝致します。